

小故事 大智慧

典藏一生的 日文情感美文

一生忘れられない心に響く美文



徐永智 吴扬/编译

宁静的片刻,独坐一隅,一杯香茗,一缕清香,在茶香里品味心情、回忆往事。流逝岁月中最为珍贵的瞬间、过往人生中不经意忽视的感受,蓦然间如潮水般纷涌而来。记忆中留下的是无法被时光取代的细腻情怀,令我们永生难忘。将那些记忆珍藏,就如同用陶制的圆罐贮存甘醇的蜂蜜,留给未来的岁月去细细地品尝,慢慢地回味,让那点点滴滴的真情久久地滋润一生……



中国宇航出版社

6 赠送超值
小时MP3
光盘

小故事 大智慧

典藏一生的 日文情感美文

一生忘れられない心に響く美文



徐永智 吴扬/编译



中国宇航出版社

· 北京 ·

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

典藏一生的日文情感美文/徐永智,吴扬编译. —北京:
中国宇航出版社,2008.6

(小故事 大智慧)

ISBN 978 - 7 - 80218 - 369 - 8

I. 典... II. ①徐... ②吴... III. 汉语—日语—对
照读物 ② 散文—作品集—世界 IV. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 050825 号

策划编辑 战 颖

封面设计 03 工舍

责任编辑 战 颖 李士振

责任校对 李 力

出 版
发 行

中国宇航出版社

社 址 北京市阜成路 8 号

邮 编 100830

(010)68768548

网 址 www.caphbook.com/www.caphbook.com.cn

经 销 新华书店

发行部 (010)68371900

(010)88530478(传真)

(010)68768541

(010)68767294(传真)

零售店 读者服务部

北京宇航文苑

(010)68371105

(010)62529336

承 印 三河市君旺印装厂

版 次 2008 年 6 月第 1 版 2008 年 6 月第 1 次印刷

规 格 880 × 1230

开 本 1/32

印 张 9.25

字 数 182 千字

书 号 ISBN 978 - 7 - 80218 - 369 - 8

定 价 17.80 元(赠 MP3 光盘)

本书如有印装质量问题,可与发行部联系调换

● 前言



宁静的片刻,独坐一隅,一杯香茗,一缕清香,在茶香里品味心情、回忆往事。流逝岁月中最为珍贵的瞬间、过往人生中不经意忽视的感受,蓦然间如潮水般纷涌而来。记忆中留下的是无法被时光取代的细腻情怀,令我们永生难忘。将那些记忆珍藏,就如同用陶制的圆罐贮存甘醇的蜂蜜,留给未来的岁月去细细地品尝,慢慢地回味,让那点点滴滴的真情久久地滋润一生……

本书收录了近百篇的日文动人故事,或许您作为一名日语学习者和爱好者,终日埋头于日文单词、日文语法的茫茫书海之中,可越来越觉得学习枯燥无味;或许您为准备各种等级考试,翻烂了习题集、练习册,熬红了眼圈,可成绩还是不尽如人意;或许您学了很久的日文,可还是无法脱口说出纯正、流利的口语。那么,就请翻开这本写满爱的故事的书吧,感受另外一种不同的诗情画意,不仅可以放松您的大脑,调剂您的心情,还可以帮助大脑活跃思维,提高学习效率。让您每日有意外的收获。这何尝不是一种日语学习的良策?

在文章的选取上,编者颇费了一番心思,收集了日本最新的各类阅读资料,力求内容新颖时尚,又不失深刻内涵。

本书所附 MP3 光盘收录了所有文章的配乐朗读,外国专家纯正标准的发音,在您欣赏美文的同时,对您的口语、听力也有着潜移默化的影响。

希望本书能给日语学习者提供一个心灵憩息的家园。在阅读美文的同时感受日本独特的文化气息,体味人生道路上的点点滴滴。

一篇篇美文好似滋养心灵的鸡汤,每日给人生注入新的力量与智慧。

编者

2008 年 6 月



目 录

爱情

アサガオ色物語	3
牵牛花物語	4
お茶の味	6
茶之味	10
星空のダンス	13
星空下的舞蹈	17
珈琲物語	20
咖啡物語	22
Happy Gate	25
幸运门	28
シュガースマイル	31
Sugar smile	32
ハッピーエンド	33
Happy end	34

いただくもの 頂き物	36
毕业的礼物	39
ヘナちょこ	43
平南的巧克力	47
バカンス	51
长假	53
あさ 朝のカフェオレ	56
早晨的咖啡牛奶	59
あか せん 赤いピアノ線	62
红色的钢琴线	64
はつこい 初恋	67
初恋	69
うすむらさまいろ やくぞく 薄紫色の約束	72
淡紫色的约定	74
かぞく 家族	76
家	79
なが ぼし 流れ星	82
流星	83
たし わら ひと み 確かに笑う、あの人を見た	85
又见到了他，他在微笑	86
じゅうたい 渋滞	87
交通堵塞	90



すなとけい 砂時計	93
沙漏	96
せいよるおも 聖なる夜に想いをそえて	99
神圣夜晚里的思绪	101
とけい 時計	103
手表	105
KISS	107
吻	109
あ 揚げパン	111
炸面包	113
しゅうてん 終点	115
终点	118

亲情

なみだと 涙が止められない	123
那一刻我泪流不止	125
おかあさん	127
妈妈	131
カラスなぜなくの	134
乌鸦到哪儿去了	138
ホームにて	142
在站台上	144

ふと目がさめて	146
半夜醒来	147
むすこ てがみ 息子からの手紙	148
儿子的来信	151
ちち 父	155
父亲	158
くろしんじゅ 黒真珠	161
黑珍珠	163
るすばんてんわ 留守番電話	166
录音电话	168
ははおや 母親	170
妈妈	172
ぐうぜん はい とけいてん 偶然に入った時計店	176
偶然进入的钟表店	179
りんごの味	183
苹果的味	186
かき き 柿の木	189
柿子树	190
てんし おく もの 天使の贈り物	192
天使的礼物	194
ゆき ふ よる 雪降る夜には…	196
在雪夜	198

人生

^{ゆき} 雪だるま	203
雪人	206
^{たなばた} ^{ねが} ^{ごと} 七夕の願い事	209
七夕的愿望	213
^{とくべつ} ^{ゆびわ} 特別な指輪	217
特别的戒指	220
^{ぎんこうこう} ^ざ ^{かいやく} 銀行口座解約	224
销户	225
ママと ^よ 呼ばないで	227
不要叫我孩子他妈	229
かなしみの ^{こう} ^{きてん} 交差点	232
伤心的十字路口	236
Stand By Me	239
Stand By Me	241
クリスマスイブ	243
圣诞夜	247
^{ぼんのう} 煩惱	251
烦恼	252
^{じんせいこうかん} あなたの人生交換します	254
和你交换人生	256

さんぶんかん 三分間	258
三分钟	262
バングル	265
手鐲	268
じてんしゃ 自転車	271
自行车	272
こころ ひ で 心の日の出	275
心里的日出	277
いちまんさつ にっ き 一万冊の日記	279
一万本日记	281
あめ ものがたり 雨の物語	283
雨天的故事	285

第一章
爱情



アサガオ色物語

アサガオの種を蒔いた。私は園芸部員。夏になったら、咲くだろうか。

出会いは春。クラス替えをして、新しいクラスになって、初めて同じクラスになったあなた。

あなたと私、隣同士の席。なぜかお互い話がよく合う相手で。気がつけば、よく話すようになっていた。仲が良くなっていった。そんな春。

初夏。アサガオはだんだん育ってきた。つるもだいふ伸びてきて、あっ、あれは蕾だ。咲くのも、もうすぐだろう。

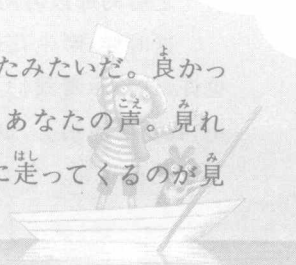
あなたのこと、なんだか気になる。どうしてだろう。

それからしばらくして、ちょっとしたことからあなたとケンカしてしまった。

アサガオも、萎れてしまった。ちゃんと毎日世話をしていたはずなのに。このまま、あなたと仲直りできないのかな。そんなの、いやだよ。涙が零れた。そして気づいた。

あなたのことが好きなんだ。

次の日。アサガオは、少し元気になったみたいだ。良かった。ほっとしていると、ふと聞こえた、あなたの声。見れば、向こうのほうから、あなたがこっちに走ってくるのが見



えた。

あなたと私、仲直り。アサガオも、もうすぐ綺麗に咲くだろう。

夏。綺麗に咲いたアサガオ。あなたと私、これからは、恋人同士。

アサガオの種を蒔いた。私は園芸部員。夏になったら、綺麗に咲くことを願おう。

これから始まる、アサガオ色物語。

美丽译文

牵牛花物语

我是园艺委员，播种下牵牛花的种子，等待它在夏天绽放。

和你相遇是在那个春天，重新分班的时候和你分在了同一个班级。

我们的相临而坐，很谈得来，不知不觉我们已经谈天说地，成为好朋友了。是的，就是那样一个春天。

初夏，牵牛花长啊、长啊，藤蔓爬上墙头，你看，那是花蕾，马上就要盛开了呢。

我也越来越留意起所有与你有关的点滴，这是为什么？

之后的那段时间里，我们却因为一点点小事吵架了。

这时候，牵牛花也枯萎了，明明每天精心照顾着它的啊！也许，这预示着我们不能和好如初了吧？会这样吗？想到这里，我竟然流泪了，也终于明白。

我喜欢你。



第二天,牵牛花好像又恢复了一点生机,看着花,我的心情也由阴转晴。这时候,听到了你的声音。抬头望去,你正从那边向我奔跑而来。

你我和好如初,牵牛花也仿佛迎来了绚烂绽放的时节。

盛夏,牵牛花盛开,你和我也终于成为了恋人。

我是园艺委员,我播种下牵牛花的种子,祈祷它在夏天里绚烂开放。

明天,牵牛花的故事,又要开始了。

词汇空间

アサガオ

(名)

牵牛花

種を蒔く(たねをまく)

(惯用)

播种





ちや あじ お茶の味

そろそろ店を閉めようか。幸田さんは、時計を見ながら
そう思った。通りの街灯はもう明かりがついていた。

先代から受け継いだ店をなんとかやってきた。自分なり
のやり方で、新しいお得意さんもできた。いつになくそん
な感慨にふけりながら店を見回したとき、冷たい風が舞い
込んでお客さんが入って来た。

それがいつも上等のお茶を買いにきていた女性だと気
づくのに、時間がかかった。

もう何年も前から、決まって毎月買いに来てくれていた。
落ち着いた立ち振る舞いや、洋服の趣味の良さなど「天祥」
がよく似合っていると思った。

ところがここ1・2年、ぱったり見かけなくなった。気にな
っていたが、どこの誰かもわからなかったの、そのうち
忘れていた。久しぶりの来店に見違えてしまった。すっか
りやつれて別人かと思った。変わっているのはそれだけで
はなかった。いつもなら迷わず「天祥」を買ってもらうの
に、随分迷っている。奥にいた奥さんも、おかしいと思った。

「寒くなりましたね。お茶を入れましたのでどうぞ。」